

高退協ニュース

高知高退協
事務局
1997-9-17
No.88

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇番八
T 088-811-6822
E 088-811-6823
振替口座 徳島 511-1893

盛会裏に

夏季学習講座

第11回夏季学習講座は、8月28日午後2時から高知城ホールで開催されました。
会員講師高橋正氏は「自由民権と文学」。
植木枝盛、土陽新聞、高知新聞の記者としても活躍した坂崎紫瀾、宮崎夢柳の三人を取りあげて、文筆活動によって自由民権思想を民衆に啓蒙したことを、持参された豊富な資料を駆使して話されました。
また高知生協病院医師中山英重氏は「高齢者の健康について」。
中山氏も持参された資料に基づいて健康増進のため七つの生活習慣を保つようにお話しされました。良質の睡眠、適度の運動、週二日の休肝日等々、です。そして血圧と体重に留意するようにとのことでした。
参加者50余名、懇親会出席者も30名と、大盛況でした。

研 修 旅 行 の 案 内	
前号にも記しましたが、目前に迫りました。11月11日(火)朝出発、12日夕6時帰着、倉敷、総社、湯郷、津山、岡山方面へのバス旅行です。詳しくは同封「ごあんない」をご覧ください。	
どんなメンバーなのか気になるものですが、すぐ親しくなれますし、知らない人ばかりというよりはまずありません。心が動いたらぜひ他の方に声をかけて多数参加していただきたいものです。担当は次の4名です。ハガキかデンワで申込んで下さい。	
名簿No.216 溝淵和江	088751215617
No.414 西田令子	0888814212070
No.753 竹島寛之	0888813211097
No.731 窪田一郎	0888814410333

機関誌「こうたいきょう」 原稿募集中

今年も機関誌を発行します。会員の皆さんがふるってご投稿下さるようお願いいたします。
形式・内容は自由です。随筆、短歌、俳句、コント、川柳等得意なものを！できれば2千字以内で。

締め切り： 10月25日

送り先： 高知市丸ノ内2-1-10 高教組
高知城ホール内
または
高知市横浜西町7-3 岡崎 清恵

※近況報告のハガキの返送もよろしく。

県教組50周年 レセプション

六月二十八日
高知城ホール

台風が近づいていた。悪天候にもかかわらず、ホール一杯の列席者であった。「教え子を再び戦場に送るな」を合いことばに、平和と民主の旗を、高くかかげて戦ってきた県教組。そのたたかひの数々が、スクリーンに映し出されていく。若き日の思い出が、鮮やかによみがえって感無量。最後は全員手をつなぎ「がんばろう！突き上げる空に」の大合唱。「わが県教組よ永遠なれ」。



訃報

会員の吉本カツ先生が七月十四日に、吉川寛先生が七月二十三日、藤本幹吉先生が九月六日に死去されました。ご冥福を心からお祈り申しあげます。

草声老話

九七年の高退協の方針に、会員相互の親睦が強調されてきた。結構な話だと思った。だが、日本の老人の生計を見ると「貧者の一燈」のように思う。二年前の神戸の大震災で住む家もバラック。台風には避難、ホームレスと同じ環境に置かれる。これ以上極貧はない。仮住居の一人暮らし。政治家には涙なきや？
消費税もアップ。副食品の単純化は悲しい。梅干しが最高と皮肉れば、妻は粗食が長寿の秘訣と笑う。うなぎは比島の海溝に消えた。診療所に行く。九月からの医療費を聞いたら、「先生まれが多い。三千円では足りませんよ」と来る。旗の購読も中止かと泣きたくなる。
散髪代は二千五百円。切りつめようとしてバリカンを買って、家で坊主頭に化身する。
ビールも疎遠になる。焼酎を湯で割ってすます。冷房装置にはなりえない。冷着物はすべて古着。娘からの夏の寝巻がマギの贈物となる。健康保険料の通知をみて老人は卒倒する。冥土でエンマ大王が早く来いと云っている。老人は早く逝け。厚生大臣の至上命令か？総会屋は億の金を得ていますぞ！！
こんな現実の日本の老人の生活を規定するのは是非か？非か？正しい分析だと思ふ。
高退協も親睦のためのクラブ活動が沢山できた。羨ましい。二度のスイスアルプスの眺望、グラランドキャニオンの奇想天外の流れ、スコットランドの美わしの湖畔。八十三才の愚者は研修旅行にも行けない。諦観あるのみである。
そこで一人で楽しむ俳句の英訳を考える。戦時下の俳句の証言も原稿紙に涙がにじむ。できれば、箸ケンの大会に、赤岡のドロメ祭りに、そして河童ダンスの奇想天外を身につけたと思うが老いすぎた。躍動なく杖にすがる。 ※(上段に)

※(下段から)一人きりで何をなすべきか？爪を切り、鼻毛を抜き、テレビを見て痴呆症をニュースで防ぐ。苦情を訴える術も忘れである。一朝にして目覚めればあるものは予期しない命か？と嘆いている。

(M.T生)

「寒泉寺日記」抄 坪井 幹之

七月

「四日」老泳会の日。学期末か、プールは中・高生で賑やか。

「十五日」梅雨明け。一時より会員名簿とニュースの発送準備。続いて、事務局会議。宿題になっていた文書発送の実務改善など当面の課題を協議。高教組定連部と執行部よりの協力要請あり。その場でカンパを集める。終了後暑氣払いの宴を「龍馬茶屋」で、参加者十二名。

「二十日」山の会「山行」。朝から梅雨明けの夏空、石籠山系の東黒森を目指す。参加者十七名。寒風山トンネルに駐車、桑瀬峠から伊豫富士の山腹を廻る。昔、何度か縦走したこの道、荒廃して予定より時間がかかり、その上、アクシデントも発生、急遽、東黒森登山を断念、伊豫富士に向かう。いままでに経験したことのない急登。やつとの思いで頂上へ。昼食、記念写真

をすませ帰途につく。

「二十六日」吉川寛先生の告別式に参列。台風九号通過中。山原さんより弔辞。吉川先生は動評闘争期の高教組委員長。まことに有徳の人であった。享年八十四才、ご冥福を祈るのみ。同行の田所胤雄さんの追悼の一句、「一筋に生きし遺影の涼しけれ」

八月

「一日」山の会「八月の行事」、中央アルプスの縦走に出発。同行十六名。一日目は木曾福島の「駒の湯」泊り。この四月に新装なった温泉宿で英気を養う。

「二日」木曾山脈の盟主駒ヶ岳に向かう。約十時間の登りやつとの思いで「頂上木曾小屋」へ。満員の山小屋で祝杯。「三日」駒ヶ岳から空木岳へ。険しいアップダウンの繰返しが続く。数多くの頂をすべり越す難路。これまた約十時間空木岳直下の「木曾殿山荘」にやつとの思いで辿り着く。この小屋も満員。

「四日」空木岳の登頂断念。

旅のしおり

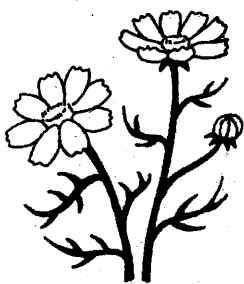
上田 栄蔵

「八月始め」の声をきくと上田家は活気づきます。それは炎天下の高知市を脱出して、二泊三日で乗鞍高原へ旅立つ日がやってきたからです。

八月二日(金)早朝、高知空港から伊丹空港へ飛び、十人乗りのレンタカーで阪神高速、中央高速を走り、松本から乗鞍に向いました。緑豊かな木曾谷を通り、昼食には「恵那パークキングエリア」の信州手打ち蕎麦を食しましたが、とても美味でした。大坂からこの夜の宿舎「民宿・見晴荘」まで七時間を要しましたが、経験豊富な長男と娘婿の運転で安心してこの長旅を楽しむことができました。

五時頃宿舎に着き、早速露天風呂に入浴、散歩を楽しましました。さすが標高の高い高原です。ひんやりとしたそよ風が長時間の車の旅を癒してくれました。

この民宿は坪井さんの紹介ですが、ほんとに心のこもった手作りの料理で食も酒もす



すみました。

翌日午前中は、一の瀬園内のサイクリングロードを自転車車で散策しました。広大な高原、澄みきった溪流、「もう一日ゆっくりここで過ごしたい」がみんなの感想でした。屋前に乗鞍岳の景平へ出発しましたが、一時間半位渋滞に巻き込まれ、景平では下車できず、車窓から麓・穂高連峰の景観を眺めました。天領の史跡高山を見学、夕方、下呂温泉に着きました。ここでは嬉しいハブニングがありました。丁度その晩が夏祭りでした。三千発の花火が私達の宿の真下で打ち上げられました。仕掛け花火も含めて二時間、競演を堪能しました。しかし、料理の方はさっぱりでした。最終日は孫三人へのサービステーで、「恵那峡ランド」

でゆっくり遊び、名古屋経由で高知空港に着いたのは夕方の六時でした。

下山にかかる。約九時間の長丁場の末、倉本駅に。旅館の送迎バスで開田高原へ。夜は全員の完歩を祝して乾杯。

「五日」朝から雨。旅館のバスで馬籠・妻籠など木曾路の観光を楽しむ。

「六日」中央アルプス縦走、開田高原散策の旅より帰高。

「十日」山の会「ついでを開く。一時半より第一部」ヒマラヤトレッキングの説明会。参加者十名、顔を揃えて富士旅行社の市原社長の説明を受く。三時より第二部「英国ツアー」の絡括・反省の会出席者十八名。記念写真の交換、ビデオの上映など旅の思い出に浸る。五時より第三部の会食。市原社長を含めて十九名の参加。「英国ツアー」を中心に最近の「中央アルプス縦走」も話題に、更に来年の計画に「北歐ツアー」の声も出る。お開きのおと、「よさこい祭り」で喧嘩中の街に繰り出す。

「十九日」高遠協事務局会議、夏季学習講座のとりくみと高教組支援カンパの件を中心に協議。来夏の参観への対応については拡大事務局会議で検討することを、また高齢者四国大会に事務局内カンパで代表を派遣することを決める。

「二十八日」高遠協夏季学習講座。第十一回目である。残暑厳しい中、四十名ぐらゐが集う。第一講座は高橋正氏の「自由民権と文学」。二時間に及ぶ講義で、自由民権運動が日本文学の近代化に与えた影響を豊富な資料で説明された。資料として「高知の近代文学素描」を頂く。第二講座は医療生協の中山医師よりの「高齢者の七つの生活習慣と二つの健康指標」について話を伺う。終了後、希望者二十八名で懇親会。初参加もあって盛り上がる。健康増進の生活習慣の一つ「過度の飲酒をしない」の教えを守って途中で退散。

32年の闘い

二ユースNo.84の「草声老語」にも書いたが、32年間の教科書訴訟は終結した。判決や意義については、すでに報じられているので、雑感と今後の運動について述べる。

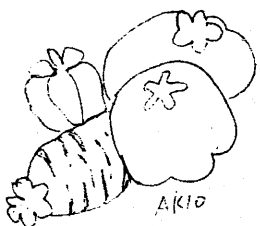
1988年2月、沖繩出張法廷に参加して、家永三郎さんから、「高知は運動が弱いから」と言われ、それではと事務局を引受けた。当時の会員は76名、1993年には220名、32年の闘いが終わった今日、県連会員は173名である。

支援運動は、いずれも財政を維持するのに腐心する。会費徴収が大変困難である。32年間の運動だから、会員の出入りは当然だが、「支援の意志は夫から引き継いでいる」と5年分まとめて送ってくださった方、会費と別にカンパまで送ってくださった方、退職したのでと会費を完納して退会する方には、全国連、県連から運動の中から、何か、お返しすることができたのだろうか」と心が痛む。

一方、10年間会費未納者から二ユース「受取拒否」と共に会費が切れたら送るな!と、また某小学校へ3年間持参し、会費請求すると、5年前に退会したはずだと返事のくる、元校長。人生後半に、いい経験を積んだ思いがする。

高知県連は、10月24日(金)、高知城ホールで、閉鎖総会を予定している。家永教科書訴訟は終わったが、「横浜教科書訴訟」や、教科書検定批判、よりよい教科書づくりの交流、運動の推進など、この運動を継承発展させなければならぬ。「新たな全国組織」の中心テーマは「憲法、教育基本法に基づきよりよい教科書とそのための制度を求めて」、より幅広い個人、団体が加わって、財政の枠内で、できる運動を高めていきたい。家永教科書訴訟のように、家永さん自身、家一軒分投じ、専従者の退職金もゼロ、弁護士経費も払えないでは、今後の諸々の民主主義発展の運動に悪影響を与える。

閉鎖総会で、何らかの提起をしたかと思っている。ぜひご協力ください。



【投稿】 私の近況 宮崎 昭夫

六月二十一日に藤戸病院を退院し、六月三十日から八月十日まで、家の玄関・廊下・階段・アトリエを開放して個展(書画展)をやっています。...

日から十一月三日までやります。この方は父の遺作と一緒の親子書画展になる予定です。...

7月31日(木) 鏡村「禪の滝」

吉本伸秋 吟行

かなかなの大合唱をうち仰ぐ 滝風に龍神の四手翻る

中内みち代

真向ふに遠滝置きて玻璃涼し 大蔵の滝百合仰ぐ滝の道

小笠原さちを

全身にかなかな時雨浴びて立つ 一山のかなかな時雨皆無口

8月7日(木) 伊予久万町

「大宝寺」吟行 中内みち代

夏遍路疎らに留守の納経所 村人の施餓鬼の準備始まりし

無人市涼し高原野菜かな 高原の町の七夕祭りかな

吉本伸秋

あきつ舞ふここ名野川の七曲り 蒟蒻の咲ける斜や峡深し

小笠原さちを

鯛の声ふり仰ぐ勅使橋 杉山に風の起こりし涼新た

老・眼・鏡

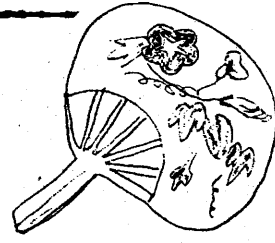
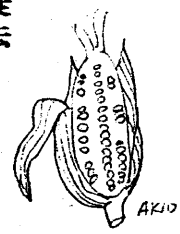
「漂流」もの

坪井会長のお世話で、二ヶ月に一回「読書会」を開いていきます。おたがい読みたい本を出し合い、読後の感想を自由に述べ合う。...

私の健康法

(私の日々)

「漂流」ものは、人間の生身、裸の人間が描かれていて興味津々たるものがあります。(浜田)



Akio

会員の消息

(山崎博幸さん) 八月十一日脳梗塞で倒れ生協病院で加療中です。「脳幹と接する部位」...

おねがい

会員の病氣や動静その他知らせたいことなどありましたら事務局までご連絡ください。

「山の会」第7回海外旅行

北欧4カ国ツアー 参加者募集

参加ご希望の方は坪井までご連絡下さい。日程等のプランは参加希望者で協議します。

(W)

第11回高知県高齢者大会のご案内

日時 10月15日1時より
 場所 高知城ホール
 テーマ 『自分の年金で生きていくために』
 第2部余興 歌と踊り・しばてん踊り
 参加費300円
 ふるってご参加ください。

全退教四プロ交流集会のご案内

前号でお知らせしましたように、今年全退教四国ブロック交流集会は、左記の日程で行われます。全退協本部から栗田書記次長が参加予定です。四国の仲間との年に一度の交流会です。ふるってご参加ください。

記

☆日時 10月21日午後2時～22日午前中
 ☆場所 愛媛県北条市国民宿舎「鹿島」
 ☆内容 各県の取組み報告、懇親会、現地見学
 ☆費用 参加費1万円
 参加者は自家用車に分乗して行く予定です。
 連絡先 高知市横浜西町7-3 岡崎 清恵

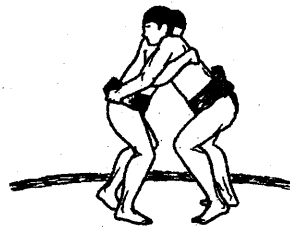
会員名簿の訂正 (正誤表)

1996年度会員名簿を次のように訂正します

頁	会籍	氏名	元	訂正
1	102	上山昌孝	TEL781-72	781-71
7	720	北岡リツ	鴨部1520-1	鴨部 1-11-1-920
7	724	寺尾俊介	鴨部456-14	鴨部 3-15-16-10
10	912	中内光昭	退職年8	7

挿入

1	208	山崎 781-52	新下井1000	08875-5-5061
14	74	吉本カカ 782	香土山山山山1696-2	08875-2-5008 1997.7.14
14	75	吉本 780	高市山1102-20	0888-45-2382 軒1997.7.23



情報提供のお願い

高教組書記長
野村 幸司

「土佐の教育改革」により、生徒・父母の学校参加、教育行政参加の一定の制度が打ち出されました。子供の権利条約「発効に際してさえ、文部省は認めようとしなかつた生徒の学校参加を、高知県教委が制度化した点で、全国の注目を集めています。すでに丸の内高校や、大月分校での先進的実践が始まっています。私たちが積極的提言が、重要な課題となつていきます。高知県では、勤評闘争までの一〇年間、高校生の学校参加、教育行政参加が積極的に押し進められました。今日のフランス・ドイツの取り組みを、ある面では四〇年間先取りしてました。残念ながらその後の「対立の構図」の中で、当時の高教組の姿を組織的に記録

し、総括することは不十分なまま今日にいたつています。土佐の教育改革により、新たな可能性が切り開かれた今こそ、歴史の掘り起こしと、総括の作業が必要と考え、先日、戦後生活指導史研究会(仮称)を発足しました。調査の視点として、次のように考えています。①対抗の視点で語られることの多かつた高校生の活動を、様々な分野での学校参加の面、地域と結びついた文化活動の面、生き生きとした学校間交流の面などから掘り起こしたい。②「高生連」活動全体を、今日の視点から、教育活動として総括したい。これまでの調査の中で、歴史の輪郭は浮かび上がってきたが、当時の生の資料がほとんどない中で、各校での高校生の生き生きとした活動の詳細がつかめていません。当時の資料や情報の提供を、是非お願いしたいと思います。よろしく願います。野村まで) (連絡先 高教組書記局 088812216822)

『思い出の五十年史』

原稿募集のお願い (仮称)

定通教育五十周年の今年、高教組定通部でも編集委員会を設け、史誌編集に取り組んでいます。九月現在、年表づくりが進み、テーマ別、学校別に原稿をお願いする方の人選をしていくところですが、そこで、昭和二十年代、三十年代の学校の様子、出来事などについて、「一つの思い出」を書いてくださる方を募集しています。当時、定通高校に勤務されていた方、生徒、関係者の方を、ご紹介下さい。あらためて原稿依頼のお願いを郵送致します。尚、資料、写真等、お持ちの方は協力願います。連絡先 高教組内(0888812216822)定通部『五十年史』編集委員会

相撲三知識 二十二

決まり手と 勝負の決め方(3) 林 勤

○相撲のタイプ、組み手相撲のタイプは大別すると突き押し相撲と四つ相撲である。突き押しは土佐ノ海、玉春日、四つ相撲でなければ全く相撲が取れないのは貴ノ浪。貴乃花はもとも四つ相撲であるが、強くなつたので突き張る力士には突き張りて応戦する。これが横綱相撲である。四つ相撲(A)と突き押し相撲(B)の違いや特長をごく一般論で比較してみよう(表現は少し大ざっぱであるが)と、①Aは地味で目立たないが、Bは動きが派手で印象に残る、②Aは横綱などを思いがけなく破ることは極めて少ないが、Bは激しい動きの中でどんな波乱が何時おこるかわからない、③Aは成績にむらが少ないが、Bは大勝ちしたり、動きの歯車が狂つたり、一寸成績の予測がつかない。横綱大関にとつては突き押し相撲がいやである。カットのようには右手を差し込んで左が上手(うわて)の組み手を右四つ、逆に左手を差して右が上手になる。と左四つという。この四つの形が一番多く見られる組み手である。両手を差し込むと双差し(もろざし)と言ひ、相手の中へすっぽり入るので、身長、体重の劣りを補う有利な組み手である。しかし、両側から絞られると動けなくなるので、入った力士は腕(かいな)を張ること、入られた力士はできるだけ抱え込んで相手の動きを封じること、これが攻、防のコツである。カットの組み手で、向かって右側の力士が左の方から投げを打つと左上手投げ、左側の力士が同じ方向へ投げを打つと、この組み手(右手で廻しを取っていない)では右側の投げ、右手で廻しをとって投げると右下手投げとなる。このように、似たような形の投げでも、組み手や廻しが異なってくる。決まり手